

# 「どんな地域にしたいか」

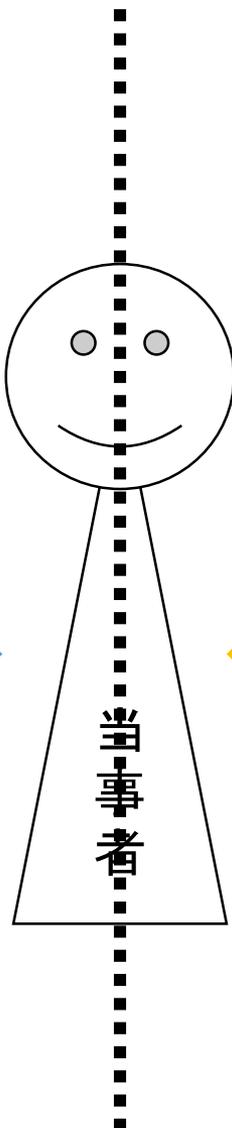
行政担当者と推進員、事業者が語り合い、  
認知症カフェを足場に当事者がよりよく  
暮らしていける地域をつくる



鳥取市

作りたい地域・・・？

本当の地域



# 鳥取県へのアクセス

東京 ⇄ 鳥取・米子 (ANA)  
約75分

米子鬼太郎空港

鳥取砂丘コナン空港



大阪 ⇄ 鳥取 (スーパーはくと)  
約2時間30分



羽田空港

# きなんせ鳥取市へ



浜村温泉 [はまむらおんせん]



I 行政担当者として

# 1 鳥取市の概要

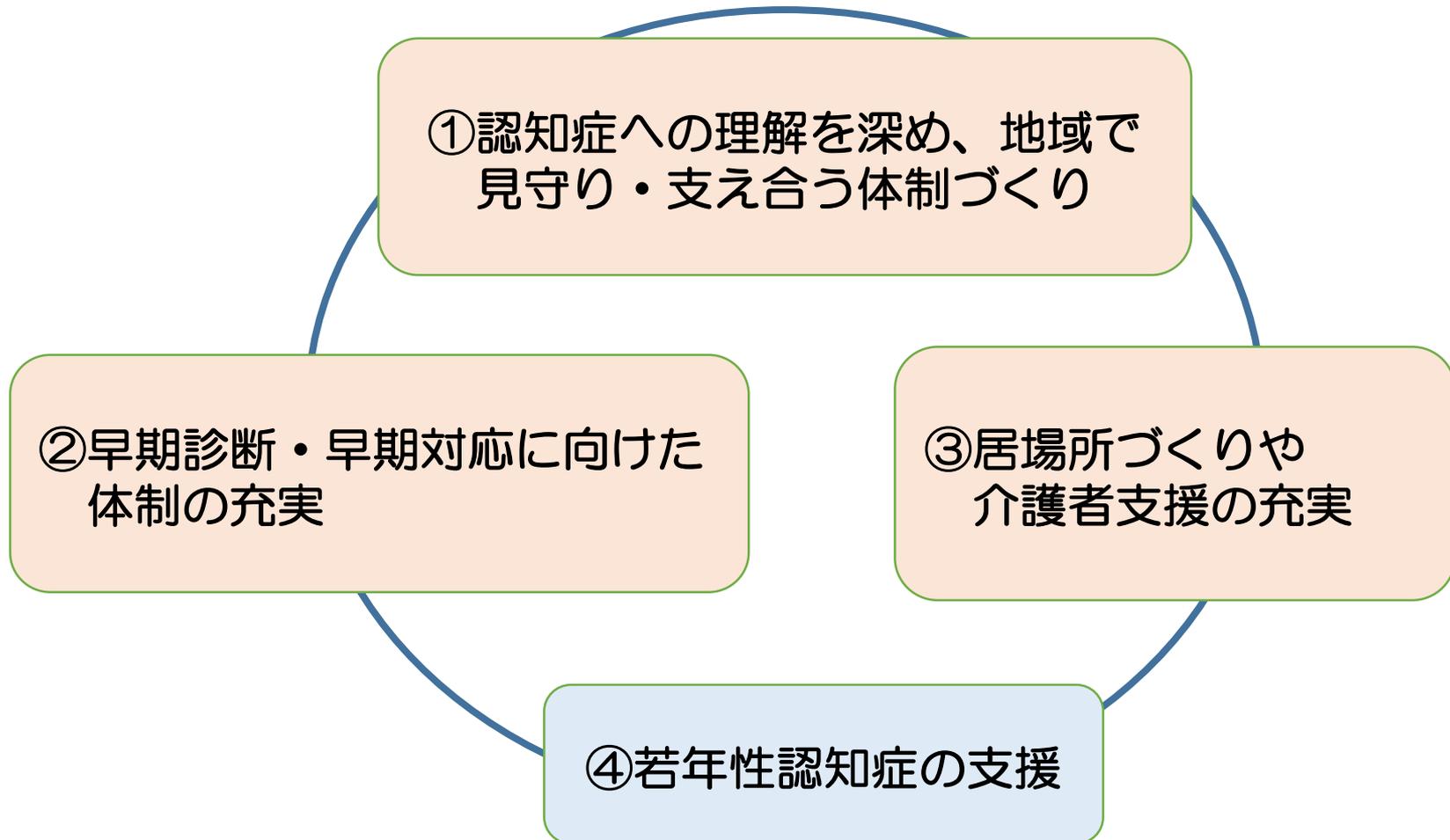


人口	188,286人
内65歳以上人口	52,975人
高齢化率	28.1%
要介護認定者数	10,249人
要介護認定率	19.3%
認知症高齢者数	6,454人
認知症有病率 (認知症日常生活自立度Ⅱ以上)	12.2%
若年性認知症	90人
地域包括支援センター(直営)	5箇所
認知症地域支援推進員	2人

平成30年3月末現在



## 2 認知症になっても安心して暮らせる まちをめざして



# ① 認知症への理解を深め、地域で見守り ・ 支え合う体制づくり

- ◎ 認知症サポーター養成講座
- ◎ 認知症を学ぶ会、フォーラム
- ◎ 認知症高齢者等安心見守り登録事業の普及
- ◎ ご近所見守り応援団協力店の普及等



## 認知症高齢者等ご近所見守り応援団

### ① 認知症について学ぶ

- ☆ 医師、警察官等を招いた勉強会
- ☆ 認知症サポーター養成講座

### ② 認知症高齢者等安心見守り登録事業



### ③ 認知症高齢者等ご近所見守り応援団協力店 登録事業

## ②早期診断・早期対応に向けた体制の充実



◎認知症初期集中支援  
チームの活動

◎認知症ケアパスの普及

◎認知症予防教室の開催等



### ③居場所づくりや介護者支援の充実

◎認知症地域支援推進員の配置

◎認知症カフェの支援

◎認知症高齢者等やすらぎ支援員派遣事業



認知症地域  
支援推進員

鳥取市内に9か所  
の認知症カフェ

## ④若年性認知症の支援

- 本人ミーティングへの参加を通じて、当事者の想いや課題の把握をし、今後の支援のあり方を検討
- 若年性認知症に対する市民の理解を深めていただく取り組み



### 3 認知症地域支援推進員配置までの経緯

今から4年前

「オレンジプラン(H25年度～29年度)に沿って認知症施策を進めていかないといけませんが、鳥取市はすごく遅れているよ。」

これから取り組むべき事業は

- ①認知症地域支援推進員の配置
- ②認知症ケアパスの作成
- ③認知症初期集中支援チームの設置
- ⑤オレンジカフェの設置など

# 担当者の葛藤

- 鳥取市の現状や課題？
- 第6期介護保険事業計画策定の年度
- どうしても認知症ケアパスや認知症地域支援推進員が必要なのか？
  - ⇒国の方針？何のために？
- 担当となったからには、中心となって事業を進めないといけないが一人では難しい。
  - ⇒誰に相談し、具体的にどう準備を進めるか？
- 時間がない。

# 何とかしなければというあせり

💡 認知症に関する事は、認知症介護に熱心な事業所のTさんに相談してみよう。

💡 他市の情報収集

💡 他市の取り組みを聞いてみよう。

💡 県に相談してみよう。

💡 市の現状を整理し、市の関係課と内部協議をしてみよう。

💡 何かヒントになる研修はないか？

⇒認知症地域支援体制合同セミナーへ参加

# 合同研修での大きな気づき

- 誰のために、何のために認知症施策を進めるのかという  
原点にかえる
- 迷ったら当事者の声を聴いてみる
- 事業を上からおろすのではなく、当事者に近いところから流れを  
変える
- 平成26年度 わがまちがどういった方向に進むのか？  
行政担当が舵取り役になり、ビジョンを話し合い、合意  
形成を丁寧に図っていく。



地域包括支援センター保健師で話し合い

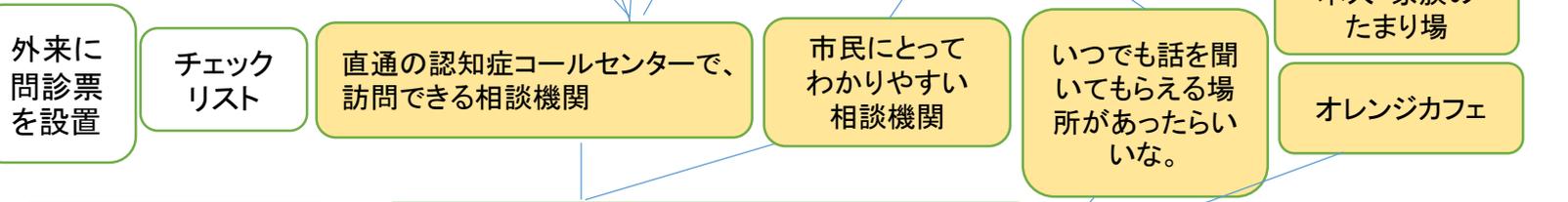
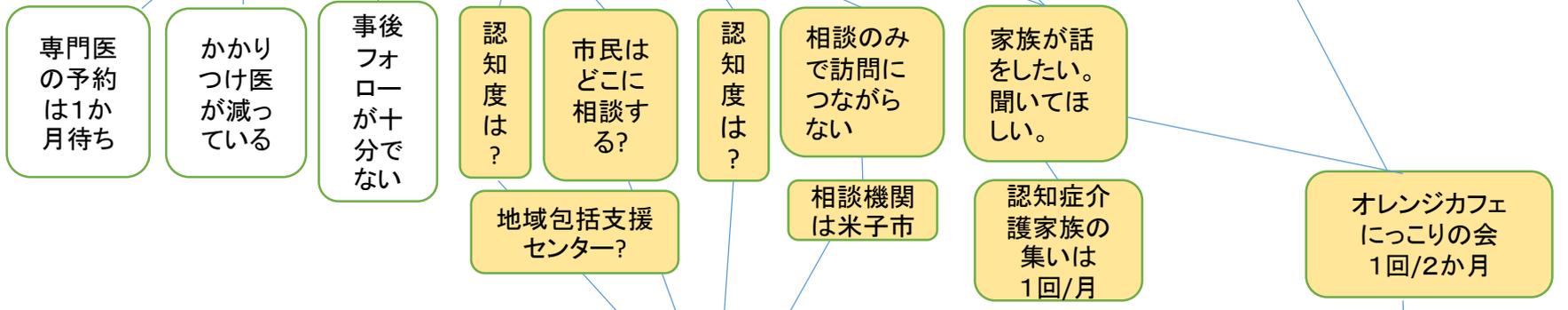
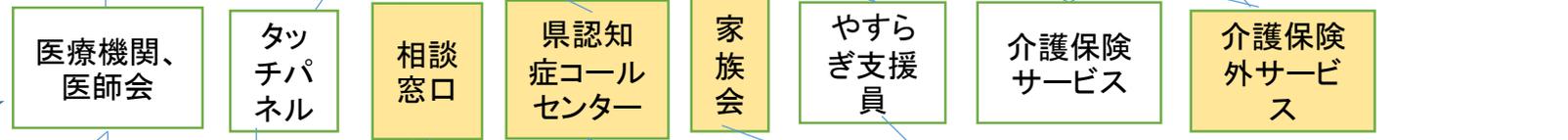
認知症を予防し、元気で暮らしたい  
認知症になっても安心して暮らしたい

私たちが目指しているのは?

願いを叶えるためには?

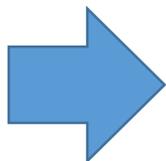
現状は?

あったらいいな?



# 市保健師間でビジョンを共有

本音トークで  
関連図作成



- 早期発見・早期相談できる
- 必要な時に必要なサービスが受けられる
- 認知症予防ができる
- 認知症になっても在宅で暮らせる
- 介護家族のフォローができる



- 現状はどうか?課題はどうか?
- あったらいいサービス⇒委託したい事
- 地域包括支援センターでできること

めざす姿の合意形成

# 認知症地域支援推進員の役割は

認知症地域支援推進員を中心として、医療と介護の連携強化や地域における認知症支援体制の構築を図る。

- ①認知症の相談・支援機能強化
- ②認知症カフェの取り組み・支援の推進
- ③医療・介護・地域の支援機関をつなぐコーディネーター役をし、地域のネットワークづくりをする。

## 認知症地域支援推進員を委託した理由

- 認知症介護の実績や経験の豊富な社会福祉法人に委託する。



- 認知症地域支援推進員が地域包括支援センターの伴走をすることにより機能強化になる。
- 社会福祉法人が認知症地域支援推進員業務をバックアップすることでの安心感。

## 4 認知症地域支援推進員の活動を効果的に推進するために、大切にしてきたこと

- 推進員活動を市民や関係機関に**広く知ってもらおう**  
市報、ケーブルテレビ、新聞、ケアマネ研修会  
医師会研修会、地域での認知症に関する啓発活動や  
認知症サポーター養成講座など、月1回の保健師連  
絡会へ参加
- 一人で活動するのではなく、地域の人や地域包括支援  
センター等と**一緒にすることが地域づくりにつながる。**
- **市の課題や重点取り組み、統計情報等を共有する**
- 認知症に関する事業の**企画・立案を一緒にする**

## Ⅱ 認知症地域支援推進員として

# 認知症地域支援推進員になったけど・・・

- 平成27年7月認知症地域支援推進員を受託  
8月認知症地域支援推進員研修に参加
- 私にできるのかという不安。
- 認知症地域支援推進員の仕事、認知症カフェについて説明会を開催→自分自身もわからないのに・・・。
- 成果を出さなきゃ、期待にこたえなきゃという焦り
- 楽しくない
- 思いを分かってくれる人がいない

# とりあえず、何かしなきゃ！

- 認知症カフェにどうやったら来てくれるか。  
楽しいところ？ 役に立つところ？
- 私がやらなきゃって頑張るのは続かない。  
しんどい。これでいいのか？



## 保健師さんの一言

「ばたばたしない。周りを良く見て。  
どーんと座って、人を動かさない。」

# つながるカフェ



# 認知症カフェ



- 一生懸命開催する場所ではなく、ゆる～く。でも何の為に開催しているか忘れてはいけない。
- 支援する人、支援される人という立場は関係なく話ができる場所
- 一人の参加者のやりたいことを**一緒に考え、応援出来る**場所
- 相談支援、ネットワーク作りの**ツール**
- 心地良い居場所であるが、居続ける場所ではない。**出発点**である。

# 事例①～調理実習～



日 時:平成29年5月29日(月)  
10:00～13:00  
場 所:COMMON 吉方温泉  
参加費:500円  
持ち物:**エフロン**とあまっている**野菜**  
などがあればご持参下さい。

～男性介護者の会～  
**調理実習**

初めての方も大歓迎!  
男どうしてワイワイやりましょいな!!

メニューは決めず  
冷蔵庫の残り物で  
ちゃちゃっと作るで～

(お問合せ先)  
COMMON吉方温泉  
☎0857-30-7881  
担当:金谷・阪本



## 事例②地域のつながり

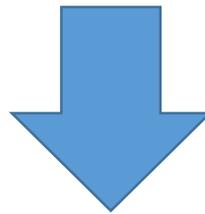


プールで泳いだあと、ロッカーの使い方が分からず、戸惑っている夫。

仕方なく男性更衣室に入り介助をしたけれど、とても困った。

あれからプールに行こうと言わなくなった。

本当は山登りも好きだけど、行かなくなりました。



施設研修で認知症サポーター養成講座を開催

## 事例③共に歩む、一緒に考える

### 鳥取県鳥取市にある山 標高263m



## 石井さんと

## 久松山に登ろう！



日時：5月12日(土)

9:00～12:00

【タイムスケジュール】

9:00 鳥取県立博物館前 集合

登山開始!!

頂上で歌の合唱～♪

11:00 下山予定

みんなで一緒に  
登りたいやぁ～♡



○各自、水分、タオル、帽子を持参してください。

○下山後時間がある方は、博物館内のカフェ・ダール・ミュゼで、

お茶をしながら、ちょこっと話しましょう。

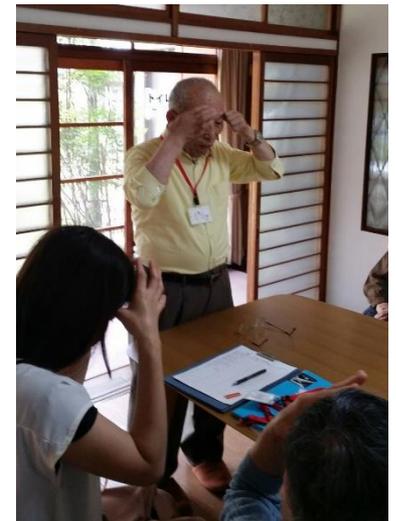
○参加申し込み 電話 080-2906-8461

認知症地域支援推進員 金谷まで気軽にお問合せ下さいませ。



# 相談支援で思う事

- 本人の意向を本当に聞いているか
- 支援するのではなく、一緒に考える視点が大切
- 就労と介護保険サービスの併用
- 認知症だから・・・で解決させてはダメ
- 自分事として考える



# 推進員として感じていること

- 専門職こそ、こうあるべきという形にとらわれて、知らないうちにあてはめようとする。もっと本人の思いを聞いてほしい。
- うまいかなくてイライラ。どうしてわかってもらえないんだらうと腹立たしい。でもだからこそ、推進員が必要。今の私の仕事がある。

● こういう鳥取市になってほしいと未来の話をすることや、同じ目的を持つ人との活動は、楽しい。だけど、認知症本人のやりたいことがどうやったら出来るか考えて、出来た時はもっと楽しい。

● でもやっぱり心が折れそうになることもある。相談出来る人、SOSが出せる場所があることが必要。

Ⅲ 受託事業者として

# 受託法人としての本音

- 20年前の認知症啓発講演会での出来事
  - 「なったらおしまいだわいな」に**怒り**
  - 「地域を変えようと思ったら10年かかる」
- 「私は認知症が好きのだが～」
- 「任せっぱなし、任せられっぱなし」はダメ
- どういう事業にするか**一緒に**試行錯誤する
- 市役所？ 包括？ 独立型？
- 「砂丘にジョウロで水を撒くみたい」
  - いろいろ手を広げるよりも、何をするか**絞る**
- 何かを実現するには、まず**縁側**を作る必要あり

# 受託法人としての本音

- 推進員には小多機ケアマネが**適任**(持論)
- 推進員は常に**壁打ち**の相手が必要
- 逃げるときは全速力で
- 何かあったら受託法人が責任を取る**覚悟**
- 委託元(市)と受託先(法人)はホットラインが必要
- 推進員の武器は**相談支援**
- 相談支援だけではもちろん支えられない
- 相談をつなげられる先(小多機など)が必要
- 地域密着型サービスの**質**的向上が裏テーマ

# 啓発活動と住民

〈全国的に有名なある事業所のお話〉

「この地域で啓発に取り組んでいるけど効果が出なくて・・・」

「明らかに認知症なのに、住民は

『あの人は認知症ではない、前からそうだった』

て言うのよね・・・」

住民が、共に暮らしてきた同じ住民に「認知症」という言葉を当てはめることに抵抗があるのは当たり前。

専門職は「認知症の人を支えよう」ではなく「Aさんを支えよう」に考えを変える必要があると思います。

作りたい地域・・・？

本当の地域

